

MSM を対象とした、HIV/STIs 即日検査相談の実施及び innovative な検査手法の開発

研究分担者	井戸田一朗 (しらかば診療所)
研究協力者	星野 慎二 (特定非営利活動法人 SHIP)
	立川 夏夫 (横浜市立市民病院 感染症内科)
	吉村 幸浩 (横浜市立市民病院 感染症内科)
	渋江 寧 (横浜市立みなと赤十字病院 感染症科)
	宮島真希子 (東京慈恵会医科大学附属病院 感染症科)
	李 広烈 (東京慈恵会医科大学附属病院 感染症科)
	沢田 貴志 (港町診療所)
	佐野 貴子 (神奈川県衛生研究所)
	近藤真規子 (神奈川県衛生研究所)

研究要旨

MSM (men who have sex with men)に限定した HIV/STIs 即日検査相談を実施することにより、検査相談を受検した MSM の特徴と背景及び、HIV 感染率の推移を把握し、受検者の特徴と背景、HIV 感染率を明らかにすることで、神奈川県地域の MSM に対する HIV/STIs 予防対策の策定に有用な情報を得る事を目的とする。

昨年度に引続き、2021 年 4 月から 2022 年 1 月まで毎月 1 回実施の予定であったが、緊急事態宣言の発令により会場である「かながわ県民センター」が閉鎖されたことにより 2 回の検査が中止となった。実施できた回数は計 8 回で、述べ 109 名が受検し、陽性者数は、HIV 抗原・抗体 (確認検査で確認) 0 名(0%)、梅毒 TP 抗体 12 名(11.01%)、HBs 抗原 0 名(0%)であった。受検者の背景は、MSM が 100%、神奈川県内居住者が 62.4%を占め、最多年齢層は 25-29 歳と 30-34 歳がそれぞれ 15.6%であった。SHIP の検査相談を過去に受検したことがある受検者は 67.0%であった。

また、当検査では検査日の 2 週間前からインターネットによる予約受付を行っているが、毎回、予約開始から 1 日で定員に達していることから、MSM に親しまれ長期に利用されるサービス枠組みを有すると示唆された。

A.研究目的

厚生労働省エイズ発生動向における感染経路別割合では男性同性間の性的接触が約 7 割を占めているが、その背景として、MSM の多くは自分が同性愛者であることを学校や職場の仲間、家族にも伝えることができず、自分自身のことを隠し、偽り、“異性愛者”を装って生活している。そのことがストレスとなり、成人後のメンタル

ヘルスに大きく影響し、HIV 感染リスクの高い性交渉との関連が先行研究で指摘されている。

また、MSM の中には過去に HIV 検査を受けたことがありながら感染してしまう人が少なくない。このように検査のリピーターが感染してしまう背景として、情報や知識だけでは行動変容に結びつかないことが考えられる。行動変容を起こしてもらうためには検査のときのカウン

セリングを通じて自己の行動を振り返る作業が重要と考えられる。

本研究では、横浜市内で MSM 向けコミュニティセンターの運営で実績のある特定非営利活動法人 SHIP の協力を得て、MSM 向けの自発的 HIV/STIs 即日検査相談（HIV 抗体、梅毒 TP 抗体、HBs 抗原）を実施し、その受検者の特徴と背景を明らかにし、HIV 感染率の推移を把握する。

B.研究方法

前年度に引き続き 4 月から 1 月まで毎月 1 回実施の予定であったが、今年度は緊急事態宣言の発令により会場である「かながわ県民センター」が閉鎖されたことにより、8~9 月の 2 回の検査が中止となった。

1 月までに実施できた回数は計 8 回で、定員 15 名の即日検査を実施した。

検査日の 1 週間前からインターネットによる予約制とし、受検者同士が顔を合わせる機会を最小限にする配慮をした。検査前に下記の項目を含むアンケートを実施した。属性、肝炎ワクチン接種有無、HIV 検査受検歴の有無、心配な性的接触の内容等。インフォームド・コンセントを得た後、看護師等による検査前の相談と採血を実施した。

その後、臨床検査技師等による検査を施行後、医師による結果告知と検査後相談を実施した。

HIV 抗原・抗体検査にはダイナスクリーン^BHIV Combo を、梅毒検査にはダイナスクリーン^BTPAb を、B 型肝炎検査にはダイナスクリーン^BHBsAg 2 Plus を用いた。

ダイナスクリーン^BHIV-1・2 が陽性だった場合は、Western Blot 法等による確認検査を神奈川県衛生研究所にて追加して実施し、検査相談実施 1 週後に確認検査結果を医師が SHIP の事務所で受検者に告知した。

（倫理面への配慮）

MSM 限定の HIV/STIs 検査については、2012

年に慶應義塾大学医学部の倫理審査委員会で審査承認されている。

また、対象者には事前に本分担研究の目的と研究報告書等に記載することを説明してから実施した。また、本検査相談は無料匿名であり、さらに回答者自身のプライバシーへの配慮のため、アンケートの集計にあたっては、数値化することにより、個人を特定できないよう配慮している。検査相談記録は鍵がかけられるキャビネットに保管し、検査実施に関わるスタッフのみ閲覧可能とした。

C.研究結果

前年度に引続き 2021 年 4 月から 2022 年 1 月までに計 8 回の検査を実施した。8 回のうち予約人数は 120 名で、実際の受検者数は 109 名であった。（図 1）

① 月別検査予約数と受検者数の推移

予約はインターネットで、過去に当施設で検査を受けた事がある人は 2 週間前から、それ以外の方は 1 週間前から開始しているが、毎回、予約開始から 1 日で予約が一杯になっている。予約システムは定員に達した時点で、受付を停止するため、予約できなかった人数をカウントすることができないが、検査を希望しなら予約できなかった人はいると思われる。

8 回の述べ予約数 120 名で、実際の受検者数は 109 名で、そのうち ID カードの提示より当検査のリピーターと確認できた受検者は 73 名（67.0%）であった。2020 年度の 48.4%より 18.6%増加している。（図 3）

② 受検者背景

受検者 109 名のうち、過去に HIV 検査を受けたことがある人は 97 名（89.0%）で、初めて HIV 検査を受けた人は 11 名（10.1%）であった。（図 3, 図 4）

過去に HIV 検査を受けたことがある 97 名に前回の受検した施設を尋ねたところ 71 名（73.2%）が当検査で検査を受けた。（図 5）

また、保健所で受けた人が 9 名（9.3%）、イベン

ト検査 8 名 (8.2%)、病院 4 名 (4.1%)、南新宿検査場 3 名 (3.1%)、クリニック 2 名 (2.1%) であった。(図 5)

年齢別の最多は 25-29 歳と 30-34 歳がそれぞれ 17 名(15.6%)であり、第 2 位は 40-44 歳代 16 名(14.7%)であった。(図 6)

居住地構成では、横浜市が 46 名(42.2%)と最多で、東京都 30 名(27.5%)、神奈川県域(横浜・川崎以外)が 17 名(15.6%)、千葉 6 名(5.5%)、川崎市 5 名(4.6%)、埼玉 4 名(3.7%)、その他 1 名(0.9%)と、県外からの利用者が 37.6%を占めていた。(図 7)

受検動機は、性的接触による心配が 46 名(42.2%)、念のためが 58 名(53.2%)、症状が出たが 3 名(2.8%)、その他 2 名(1.8%)であった。(図 8)

③ 気になる性的接触について

受検動機で「性的接触」と回答した 46 名に対して性行動のアンケート調査を行ったところ、初めての相手が 24 名(52.2%)、いつもの相手が 16 名(34.8%)、出張ホストが 1 名(2.2%)であった。また、そのときのコンドームの使用状況では、オーラルセックスのときにコンドームを使わなかった 43 名(93.5%)、アナルセックス(ウケ)のときにコンドームを使わなかった 9 名(19.6%)、アナルセックス(タチ)のときにコンドームを使わなかった 13 名(28.3%)であった。(図 10)

④ 当検査場を選んだ理由(有効回答 106 名)

当検査場を選んだ理由の調査(複数回答)では、「直ぐに結果が分かるから」92 名(86.8%)、「梅毒・B 型肝炎も受けられるから」79 名(74.5%)、「ゲイ専用なので」43 名(40.6%)、「場所が近いから」41 名(38.7%)、「前に受けたから」41 名(38.7%)、「曜日と時間帯が受けやすい」34 名(32.1%)であった。(図 9)

⑤ 満足度調査(有効回答 106 名)

事後アンケートにおいて、「役に立つ知識が得られた」と答えた人は 97 名(91.5%)で、

「知人・友人にこの検査をすすめたいと思いますか」の質問で、「すすめる」69 名(65.1%)、「話してみたい」21 名(19.8%)であった。(図 11)

⑥ HIV/STIs 検査結果

陽性者数は、ダイナスクリーン^Bによる HIV 抗体(後に確認検査で陽性と確認)0 名(0%)、梅毒 TP 抗体 12 名(11.01%)、HBs 抗原 0 名(0%)であった。(図 1)

TP 抗体 12 名のうち、過去に既往歴のない人は 2 名で、他 10 名は既往歴のある人だった。

また、TP 抗体 12 名のうち、当検査のリピーター(ID カードで確認)は 7 名で、そのうち今年度の検査で陰性から陽性に転じた人は 1 名であった。(図 2)

D. 考察

ID カードの提示より当検査のリピーターと確認できた受検者は 73 名(67.0%)であった。また、リピーターのうち、過去 3 年以内に 3 回以上の受検者は 49 名(67.1%)であった。(図 2)

事後アンケートにおいて、91.5%の受検者が役に立つ情報が得られたと答え、約 8 割が SHIP の検査を知人に「すすめたい」「話してみたい」と答えていることから、利用者の満足度は高く、MSM に親しまれ長期に利用されるサービス枠組みである可能性が示唆された。(図 11)

その一方で、予約開始から 1 日で定員に達していることから、更なるニーズに応えるには定員の増加、または検査回数の増加が必要とされる。

また、緊急事態宣言発令による会場閉鎖に伴う複数回の検査中止にも関わらず、1 回の検査相談における受検者数に変化はみられず、COVID 流行に伴う人流抑制や接触制限下においても HIV/STIs 検査へのニーズは高く維持された。

SHIPは専用の検査施設を持っていない。検査相談に用いる多岐に渡る物品と資材は、通常はSHIPの事務所で保管され、検査の度に、少ない人的資源で、検査会場に運搬・移動・設置している現状では、検査回数を増やすことは難しい。そのため、上記を解決できる恒久的な検査施設を探すことが今後の課題とされる。

E.結論

なし

F.健康危険情報

なし

G.研究発表

井戸田一朗. 臨床医として効果的な HIV 感染拡大抑制を考える. ランチョンセミナー11. 第32回日本エイズ学会学術大会・総会. 2018年12月4日 大阪.

H.知的所有権の出願・登録状況（予定を含む）

なし

(謝辞)

SHIPでの検査相談に、長年にわたりご貢献頂いた、相楽裕子先生に心からの感謝を申し上げます。

図1 月別受検者数と検査結果

月	予約数 (人)	受検者数 (人)	リポーター (人)	HIV(+)	TPHA(+)	HBsAg(+)
4月	15	12	9	0	1	0
5月	15	14	12	0	4	0
6月	15	14	8	0	3	0
7月	15	15	8	0	0	0
8月	(緊急事態宣言により中止)					
9月	(緊急事態宣言により中止)					
10月	15	12	9	0	0	0
11月	15	14	10	0	3	0
12月	15	14	8	0	1	0
1月	15	14	9	0	0	0
合計	120	109	73 (67.0%)	0 (0.0%)	12 (11.01%)	0 (0.0%)

*IDカードにより確認することができたリポーター数を示す。

* 定員は各回15人。

図3 リポーターと陽性率の年次推移
(2016年度～2021年度)

月	回数	予約数 (人)	受検者数 (人)	リポーター数* (人)	HIV(+)	TPHA(+)	HBsAg(+)
2016年度	12	183	153	38 (24.8%)	1 (0.65%)	11 (7.19%)	0 (0%)
2017年度	10	159	144	54 (37.5%)	1 (0.69%)	24 (16.67%)	2 (1.39%)
2018年度	11	165	135	59 (43.7%)	0 (0%)	15 (11.11%)	0 (0%)
2019年度	11	165	139	71 (51.1%)	1 (0.72%)	12 (8.63%)	0 (0%)
2020年度	7	105	91	44 (48.4%)	2 (2.20%)	11 (12.09%)	1 (1.10%)
2021年度 (1月まで)	8	120	109	73 (67.0%)	0 (0%)	12 (11.01%)	0 (0%)
計	61	886	771	339 (44.0%)	5 (0.65%)	85 (11.02%)	3 (0%)

*IDカードにより確認することができたリポーター数を示す。

図2 リポーターの受検回数、梅毒の既往歴

(1) リポーター*の過去3年以内受検回数

回数	1回	2回	3回	4回	5回	6回以上	合計
人数	3	21	13	8	13	15	73
(%)	4.1%	28.8%	17.8%	11.0%	17.8%	20.5%	

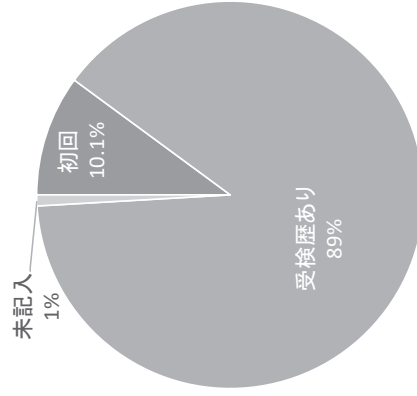
3回以上は、49名(67.1%)

(2) 梅毒(TP抗体)既往歴

当検査の受検歴	梅毒既往あり	梅毒既往なし	合計
初回	4	1	5
リポーター*	6	1	7
計	10	2	12

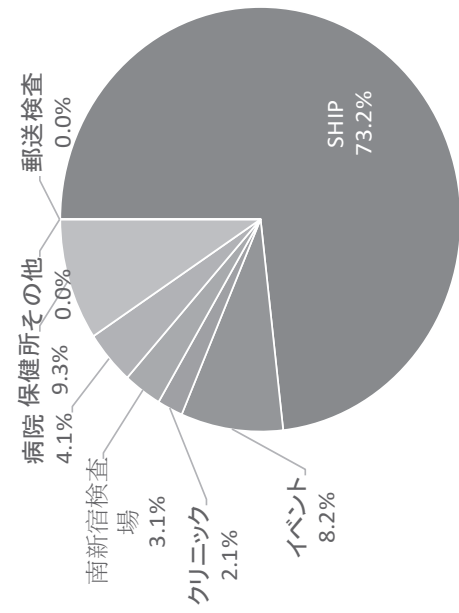
*IDカードにより確認することができたリポーター数を示す。

図4 HIV受検歴



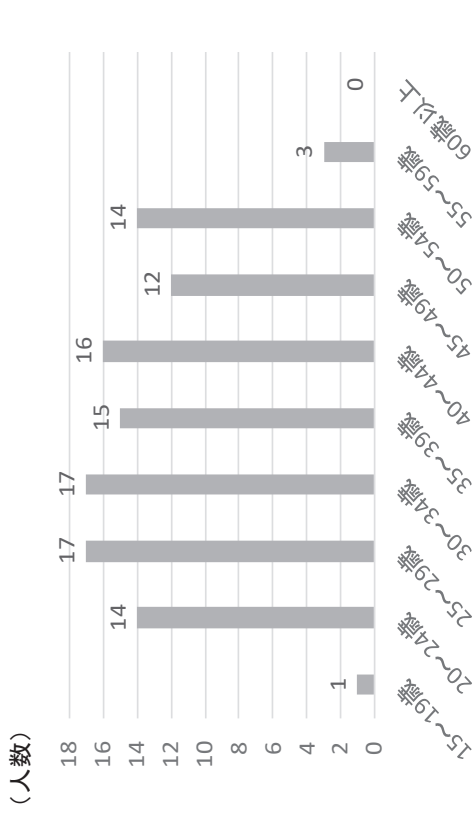
N=109

図5 前回の受検施設 (受検歴有り77人)



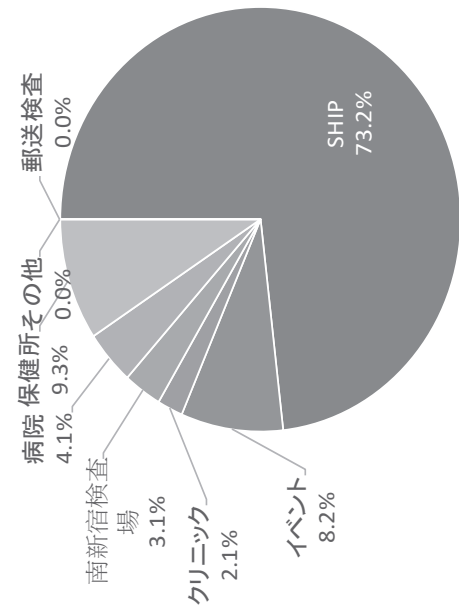
N=97

図6 年齢別構成



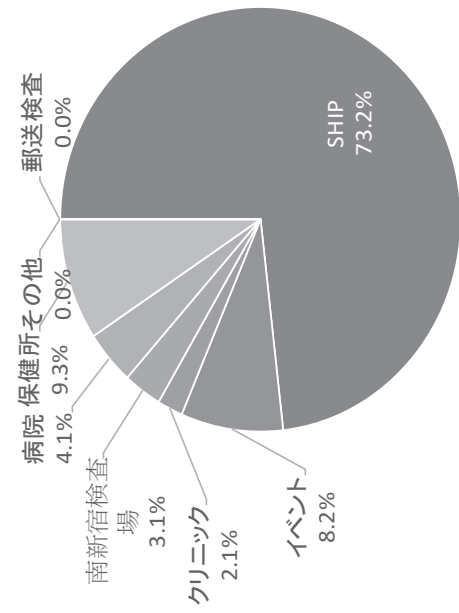
N=109

図7 居住地構成



N=109

図8 受検動機



N=109

図9 気になる性的接触の相手との関係と
コンドーム利用状況（受験動機：性的接触 46名）

(1) 気になる性的接触の相手との関係

いつもの相手	初めての相手	出張ホストなど	未記入	合計
16 (34.8%)	24 (52.2%)	1 (2.2%)	5 (10.9%)	46 (100%)

(2) 気になる性的接触のコンドーム利用状況

	しなかった	使った	使わなかった	未記入	合計
オーラル	0 (0.0%)	2 (4.3%)	43 (93.5%)	1 (2.2%)	46 (100%)
アナル(ウケ)	21 (45.7%)	11 (23.9%)	9 (19.6%)	5 (10.9%)	46 (100%)
アナル(タチ)	18 (39.1%)	12 (26.1%)	13 (28.3%)	3 (6.5%)	46 (100%)

図10 当検査を選んだ理由（複数回答）

当検査場を選んだ理由（事後アンケート回答者数 106人）

選んだ理由	人数	(%)
直ぐに結果が分かるから	92	86.8%
梅毒・B型肝炎も受けられる	79	74.5%
ゲイ専用なので	43	40.6%
場所が近いから	41	38.7%
前に受けたから	41	38.7%
曜日と時間帯が受けやすい	34	32.1%
他の検査場が分からない	3	2.8%
WEB予約ができるから	0	0.0%

図11 満足度調査

(1) 役に立つ知識を得られましたか？（事後アンケート 回答者数 106人）

項目	人数	(%)
得られた	97	91.5%
得られなかった	3	2.8%
(空白)	6	5.7%

(2) 知人・友達にこのSTD検査をすすめたいと思いますか？（事後アンケート 回答者数 106人）

項目	人数	(%)
すすめる	69	65.1%
話してみたい	21	19.8%
わからない	9	8.5%
すでに受けている	4	3.8%
話す気はない	1	0.9%